

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 号		
所属	保健学専攻 生涯保健学 分野 母子保健学 領域	氏名	小林 千世
学位論文題目	Reminiscence Activates the Frontal Lobe and Ameliorates Negative Mood States in Cognitively Intact Older Adults (回想は認知機能が低下していない高齢者の前頭葉を活性化し、ネガティブな気分を改善する)		
論文審査担当者	主査 下里 誠二 副査 木村 貞治、 池上 俊彦		
<p>(学位論文審査の結果の要旨)</p> <p>高齢者の認知機能の低下を予防することは高齢者の健康維持のために重要であるが、その方法の一つに回想法がある。認知機能に障害のない高齢者に対する回想法介入のポジティブな効果が報告されているが、回想法中および回想法後の前頭葉への効果の基盤となる生理学的メカニズムは十分に理解されていない。本研究は回想法を施行中の近赤外分光法近赤外線分光法 (Near-infrared spectroscopy : NIRS) による、両側前頭葉の血流、酸素代謝変化及び心拍変動による自律神経活動の変動、また施行前後での気分と主観的健康観の変化を測定し、回想法による影響を検討したものである。</p> <p>実験手続きとして、回想法の手順は事前に対象となる参加者の年代を考慮して予備実験をもとに設計され各2分のBaseline期、Recalling期、Storytelling期とされた。評価項目として試行中のNIRSのOxy-Hb、Deoxy-Hb濃度、Heart Rate VariabilityのHF及びLF/HF、試行前後に、Profile of Mood States (POMS) 2短縮版の各因子、主観的健康観が測定された。</p> <p>21名のサンプルに対して実験が行われ、平均年齢70.1±4.7歳で全員Mini Mental State Examinationで認知機能異常がないことが確認された。結果として、Oxy-Hbは右側頭葉でBaseline<Recalling, Baseline<Storytellingであり、Deoxy-Hbは右側頭葉でBaseline>Storytelling, 左側頭葉ではBaseline>Recalling, Baseline>Storytellingに統計学的に有意な変化を認めた。また、試行中Oxy-Hb平均値は上昇傾向を示し、Deoxy-Hbの平均値は下降傾向を示した。POMSではanger - hostility, confusion - bewilderment, depression - dejection, tension - anxiety, total mood disturbanceで有意に改善を認めた。主観的健康観も試行後に有意な上昇を認めた。HRVには変化を認めなかった。</p> <p>この結果から本研究は回想法に基づく介入が前頭葉を活性化し、認知機能に異常のない高齢者参加者のネガティブな気分を改善することを明らかにした。これらの知見は、臨床実践へのエビデンスを与える新規性の高いものであり、高齢者のQOLの向上に寄与する可能性のあるものである。</p> <p>よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			